

カラ操法審査基準 改正案

【改正について】

理想は支部大会・県大会と同様に水出し操法大会だが、現時点ではいろいろな面で不可能と思われる。練習環境の整備（訓練場所・道具の確保や水道使用予算・団員への負担等）仮に中央分団が水出し訓練を行うとした場合、市役所北側駐車場で実施し、1日1チーム限定とし4月～5月までの間を振り分けた場合、約60日÷6部＝月10回、各部へ計10回の練習日が与えられますが、あくまで中央分団のみの使用で、実際には隣接する樺海分団や豊栄・平和・須賀・匠磋などとの共有となり、訓練回数は3～4回となります。この3～4回程度では、明らかに訓練不足であり、大会での披露は危険行為と考えられ、各部がある一定の訓練回数（最低10回以上）を行える環境が整わない限り、水出し操法大会はやらせない方が適切かと。また、水出しの操法大会を開催するには、大会当日のスケジュールの見直し（演技修了ごとの排水作業・撤収に時間が掛る）や水利担当団員などの運営補助員の増員も行うこととなります。

現在のカラ操法でも、やり方一つで十分に水出しを想定した訓練となりますので、先ずはやれるべき事を試す事が良いかと思えます。

※水出しに拘るなら「操法演技の水出し」ではなく、秋の実戦操法訓練や5月の規律訓練の訓練指導で対応。

問題点と改正案

問題点① 本市のカラ操法のタイム測定方法では、容易にタイムが切れてしまう。

小型ポンプ操法では基準タイム45秒に対し、各部39～42秒（平均5～6秒切り）ポンプ車操法では基準1線55秒に対し47～50秒・2線65秒に対し58～62秒（平均5～6秒切り）と楽々タイム切りますが水出し操法では基準タイムを切ることさえ困難になる。即ち、この結果から水出し操法を想定したタイム測定とは言えない。

改正（案）タイム測定場所を、現在の注水姿勢をとった時点ではなく、機関員への伝令（復唱）までとする。

復唱後の送水～的当ての大半は機械任せの送水タイムですので、送水～的当てまでを想定一律15秒とする。内訳は機関員の「放水始め」から送水動作に1秒+送水タイムの12秒・的当てに2秒の計15秒

タイム測定は、小型ポンプ操法では3番員の復唱「放水始め」の「め」が30秒を基準とする。（±5秒）

ポンプ車操法は4番員の復唱「放水始め」の「め」が1線40秒・2線50秒を基準とする。（±5秒）

例）小型ポンプでは3番員の放水始めの「め」が30秒なら、30秒+想定15秒＝45秒となり加点0点。

「め」が28秒なら28秒+想定15秒＝43秒となり-2秒切りで加点+2点となります。

問題点② 最も重要な余裕ホース作成動作が省かれている。タイム重視

水出しの余裕ホースは送水圧を緩和させ筒先（団員）の安全確保、筒先操作をスムーズに行う為の重要な「技」であり「振られない為の余裕ホース作り」が出来るかで勝敗が決まると言っても過言ではない。しかし現在のタイム競争操法では、余裕ホース作成（確保・整理・注水補助）は省略され無意味な動作となっている。また、審査項目においても「余裕ホース確保不適＝1点」が審査対象で、本来は余裕ホースの出来次第で大きく左右される「注水姿勢」「的当て」などが審査対象外になっている。

改正（案）余裕ホースの出来に対して審査基準の項目を追加する。（水が流れた場合を想定した審査）

余裕ホースの出来次第で得点やタイムに大きく影響しますが、カラ操法では注水姿勢不適（振られ）などが審査対象外となるため、余裕ホースの出来に特化した審査項目を追加し、想定 of 放水審査に対応。

例）余裕ホースの形状・ねじれ箇所・キック箇所などを明確な審査基準・減点対象とする。（審査員の主観）

問題点③ カラ操法では第3結合の「放水始め」までが勝負となり、機関員への伝令（小型1番・ポンプ車2番3番）の戻りが疎かになっているため、吸管伸長要員（小型2番3番・ポンプ車3番4番）も同様に動作が疎かになる。さらにカラ操法では真空（揚水）に掛る時間（小型ポンプで4～5秒・ポンプ車では7～8秒）が省かれているため、水出し操法に変わると機関員が伝令に間に合わない。

この点においても水出しを想定しているとは言えない。

改正（案）想定で揚水時間の静止または機関員の真空ボタンを押すタイムを審査基準（目安）とする。

例1）機関員は真空ボタンを押した後、揚水時間（想定で、小型は4秒・ポンプ車は8秒）そのまま静止。

例2）機関員が真空ボタンを押すタイムを審査する。（目安程度）

小型ポンプ操法の場合、3番員が25秒以内に真空ボタンを押す。

ポンプ車操法の場合は、4番員が25秒以内に真空ボタンを押す。

25秒の理由 45秒で的を落とす場合、3番員は30秒で送水動作を開始しなければいけません。

従って、揚水待ち4秒＋余裕ホース直し1秒の計5秒前に真空ボタンを押すことが必要

ポンプ車は揚水8秒以外に、吸口の開放動作や余裕ホース直して計13～15秒は必要

揚水のタイム測定員（担当者）について

問題点①に改正すれば、従来タイム測定員は火点まで移動することなく、ポンプ側の伝令停止線にて「よし！」から機関員の復唱「放水始め！」まで、その場での計測となるため、同タイム測定員が片手間で行えます。

例1）の場合は、タイム測定員が口頭で対応（1・2・3・4とカウントをとる）

例2）の場合は、タイム測定員がストップウォッチを見ながら「25秒」を審査員に知らせる。（目安で十分）

【補足】問題点や改正（案）は、私的経験に基づく参考例ですので、今後は署員を交えて検討会が必要です。